

【普通科】 3年次 【選択】 科目「経済活動と法」授業のシラバス

1 概要

教科名	商業	科目名	経済活動と法	単位数(コマ数)	2(105)
科目の目標	ビジネスに必要な法規に関する基礎的な知識を習得させ、経済社会における法の意義や役割について理解させるとともに、経済事象を法的に考え、適切に判断して行動する能力と態度を育てる。				
教科書(出版社)	経済活動と法 新訂版(実教出版)		副教材(出版社)	平成31年度版全商業経済検定 模擬試験問題集 1・2 級 経済活動と法(実教出版) 経済活動と法 問題集(実教出版)	

2 学習の方法

(1) 予習について

次の授業の準備として教科書を読んでおくようにしてください。
ただ読むだけでなく、意味のわからない言葉や文章に線を引くなどして、授業内で理解するようにしてください。
また、日本や世界で起こっている経済事象やビジネスの事柄に関心を持つことも大切です。

(2) 授業について

授業開始時に経済・法律用語の確認テストを実施します。答えられるようにしてください。
授業は、事例から課題を設定し、その解決に向けて展開していきます。積極的な姿勢で臨んでください。
板書していない事柄であっても、重要だと思ったことはノートに書き留めておくようにしてください。

(3) 復習について

授業ノートにその日に学んだ内容のまとめをしてください。
授業ノートのまとめでインプットした内容を、問題集を用いてアウトプットしてください。

〈学習アドバイス〉

2月上旬に商業経済検定があります。検定合格を目標に毎日の学習をしてください。模擬問題や過去問題に取り組む講習会が行われます。積極的に参加してください。

3 評価について

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
①関心・意欲・態度	経済活動と法について関心をもち、探究しようとしている。(授業ノートのまとめや提出物に対する取り組み姿勢を評価します。)
②思考・判断・表現	経済活動における法の意義と役割について思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に法的に思考し、導き出した考えを表現している。(企業活動に即した具体的な事例に関して、法の適用がもたらす結果を適切に文章で表現できるかを評価します。)
③技能	経済活動に関する事例から法律関係を読み取り、その内容について整理している。(企業活動に即した事例における当事者同士の法律関係を読み取ることができるかを評価します。)
④知識・理解	経済活動や法に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、法の意義や役割について理解している。(企業活動に関する経済用語や法律用語を理解しているかを評価します。)

(2) 評価の方法(以下観点①～④は「(1) 評価の観点」と対応する)

評価材料		定期考査・確認テスト		授業態度	小テスト	課題
観 点	割合					
①関心・意欲・態度	10%	○	法が日常生活でどのように活かされているかを問うことがあります。	◎		○
②思考・判断・表現	25%	○	教科書の章末問題、問題集レベル		○	○
③技能	25%	○	教科書の章末問題、問題集レベル		○	○
④知識・理解	40%	○	教科書の章末問題、問題集レベル		○	○

〈担当者からのメッセージ〉

定期考査・小テスト・課題提出・積極的な学習態度や取り組み(授業への出席など)を総合的に評価します。

【普通科】 3年次 【選択】 科目「経済活動と法」授業のシラバス

4 授業計画

月	単元	時数	学習内容	観点別評価	到達目標	考查等
前期 4	1章1節1) 経済活動における法の役割2) 法の意義と体系	9	法にはどのような特徴があり、どのように分類されるのか	②	法の特徴と分類について思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に適切に判断し、導き出した考えを表現できる。	前期中間考查
	1章1節3) 経済環境など社会変化と法4) 法の適用と解釈		「車と馬は通行禁止」のとき牛は通行できるのか	②	法の適用と解釈について思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に適切に判断し、導き出した考えを表現できる。	
5	2章1節1) 権利と義務2) 権利・義務の主体3) 自然人の権利能力2章1節4) 自然人の行為能力と制限行為能力者制度2章1節5) 法人2章2節1) 物2) 財産権とその種類	12	人はいつ権利能力を得て、いつそれを失うのか 制限行為能力者の目的とは何か	② ①	権利と義務の関係や権利能力について思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に適切に判断し、導き出した考えを表現できる。 行為能力に関心をもち、制限行為能力者制度について探究できる。	
6	2章3節1) 著作権2) 工業所有権2章3節3) 育成者権4) 回路配置利用権5) 知的財産権の特質6) 知的財産法の活用	12	なぜ法人という制度が必要か 物を利用する権利(物権)には、どのようなものがあるのか	④ ②	制限行為能力者の種類や制度に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、その意味について理解できる。 法人の種類や機関について思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に適切に判断し、導き出した考えを表現できる。	
7	3章1節1) 取引と契約2) 契約の一般原則3) 契約と意思表示3章1節3) 契約と意思表示3章1節4) 契約の分類3章2節1) 売買2) 不動産の売買3) 動産の売買3章2節4) 債権の売買3章2節5) 売買契約の保証3章3節1) 消費貸借3章3節2) 賃貸借3) 宅地の貸借4) 建物の貸借5) 使用貸借3章4節1) 時効の制度2) 所有権が取得できる特別な場合3章4節3) 債権・債務が消滅する特別な場合3章5節1) 物権の保護3章5節2) 債権の保護3章5節3) 債権の担保3章5節4) 不法行為	12	知的財産権をなぜ保護するのか 知的財産権が侵害されたときの対抗手段とは	③ ③	条文から知的財産権の内容や存続期間を読み取り、その特徴について整理できる。 条文から知的財産権に関する差止請求権や知的財産高等裁判所制度のしくみについて読み取り、その内容について整理できる。	
8	3章4節1) 時効の制度2) 所有権が取得できる特別な場合3章4節3) 債権・債務が消滅する特別な場合3章5節1) 物権の保護3章5節2) 債権の保護3章5節3) 債権の担保3章5節4) 不法行為	6	契約はどのように成立するのか 自分に代わって他人が契約を結ぶことは認められるか	② ③	契約や意思の不存在について思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に適切に判断し、導き出した考えを表現できる。 条文から典型契約の分類について読み取り、その内容について整理できる。	前期期末考查
9	3章5節1) 物権の保護3章5節2) 債権の保護3章5節3) 債権の担保3章5節4) 不法行為	12	契約はどのように分類されるのか 二重売買で勝つのはどちらか	② ③	不動産・動産の対抗要件について思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に適切に判断し、導き出した考えを表現できる。	
後期 10	4章1節1) 民法と商法2) 商行為4章2節1) 営業自由の原則2) 営業自由の制限4章3節1) 会社の種類2) 株式会社の特徴と株主の有限責任4章3節3) 株式会社の設立手続き4) 発起人と設立時取締役の責任4章3節5) 株式と株主の権利6) 株式の種類7) 株式の譲渡4章3節8) 株式会社の機関とその種類9) 株主総会4章3節10) 取締役・取締役会・代表取締役11) 取締役の義務と責任4章3節12) 監査役13) 会計参与14) 会計監査人4章3節15) 委員会を置く株式会社4章3節16) 資金調達4章3節17) 企業再編成18) 会社関係書類の電子化と電子公告	15	なぜ1,000万円もらえる権利を900万円で売るのか なぜサラ金問題は発生したのか なぜ土地の借主を保護するのか	③ ③ ②	事例資料から債権者・債務者・第三者の関係性を読み取り、その内容について整理できる。 事例資料から利息に関する最高裁判決の考え方を読み取り、その内容について整理できる。 賃借権の対抗要件と借主の保護が貸主に及ぼす影響について思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に適切に判断し、導き出した考えを表現できる。	後期中間考查
11	4章3節8) 株式会社の機関とその種類9) 株主総会4章3節10) 取締役・取締役会・代表取締役11) 取締役の義務と責任4章3節12) 監査役13) 会計参与14) 会計監査人4章3節15) 委員会を置く株式会社4章3節16) 資金調達4章3節17) 企業再編成18) 会社関係書類の電子化と電子公告	15	なぜ他人の物を自分の物にできるのか 物権が侵害されたときどうするのか	④ ④ ③	時効制度に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、その意味について理解できる。 財産権と契約、物の売買に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、その意味について理解できる。 事例資料から妨害排除請求権に関する取り扱いの違いを読み取り、その内容について整理できる。	
	4章3節15) 委員会を置く株式会社4章3節16) 資金調達4章3節17) 企業再編成18) 会社関係書類の電子化と電子公告		債務の履行を強制するためにはどのような方法があるか	③	事例資料から債権者・債務者の関係性と適切な履行の強制方法を読み取り、その内容について整理できる。	
	4章3節17) 企業再編成18) 会社関係書類の電子化と電子公告		返済を確実にするための担保とは何か	②	債権者平等の原則について思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に適切に判断し、導き出した考えを表現できる。	
	5章1節1) 手形・小切手の意義と性質2) 手形行為・小切手行為5章1節3) 約束手形5章1節4) 為替手形5章1節5) 小切手6) 手形・小切手と企業活動5章2節1) 金融取引の現状と課題2) 金融商品取引5章2節3) 電子記録債権4) 電子資金移動の現状と課題	9	担保物権とは何か 商人の行為になると何が変わるのか	② ③	担保物権について思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に適切に判断し、導き出した考えを表現できる。 商行為の分類について思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に適切に判断し、導き出した考えを表現できる。	
12	5章2節1) 金融取引の現状と課題2) 金融商品取引5章2節3) 電子記録債権4) 電子資金移動の現状と課題	9	なぜハーゲンダッツは280円以下で買えなかったのか 監査役の実効性とは何か	③ ②	事例資料から独占禁止法における禁止事項を読み取り、その内容について整理できる。 監査役の実効性について思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に適切に判断し、導き出した考えを表現できる。	全商商業経済検定
	6章1節1) 法令遵守2) 企業における法令遵守の重要性3) 説明責任6章2節1) 消費者の保護に関する法律2) 消費者の安全6章2節3) 生活に身近な特殊売買6章2節4) 消費者信用5) 販売方法の多様化と消費者の保護6章4節1) 紛争の予防6章4節2) 紛争の解決3) 強制執行6章3節1) 労働に関する一般法2) 労働に関する特別法6章3節3) その他の労働に関する特別法4) 働く者の福祉	3	借入 or 株式 or 社債、いずれによる資金調達が多いのか 金額未記入の手形に後から書かれた適当な金額の請求は誰に対して可能なのか 積極的に電子化すべきなのは、小切手か、それとも手形か 支払いが完済前の自動車売却処分は法律上、問題か	② ③ ① ④	日本企業の資金調達方法について思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に適切に判断し、導き出した考えを表現できる。 白地手形の特徴とその法的責任について読み取り、その内容について整理できる。 手形・小切手の電子化に関心をもち、そのメリット・デメリットについて探究できる。 信用購入あっせんに関する基礎的・基本的な知識を身に付け、その意味について理解できる。	
1	6章3節1) 労働に関する一般法2) 労働に関する特別法6章3節3) その他の労働に関する特別法4) 働く者の福祉	計105	購入商品の返品は可能か なぜ今働き方改革なのか	② ④	通信販売における解除権について思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に適切に判断し、導き出した考えを表現できる。 労働法に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、その意味について理解できる。	

※ 観点別評価①は関心・意欲・態度、②は思考・判断・表現、③は技能、④は知識・理解を表しています。

※ 授業計画は進度により前後することがあります。